

気仙沼にないもの

気仙沼にないもの、マック無い、TSUTAYA 無い、ブック・オフない、吉野家ある、松屋ない、つた屋ない、日高屋ない、王将ない、こう書いてくると私の日頃の食生活が分かってしまうので、本題に入ります。

マックはイオンの中にあっただけです。しかし、3・11の被害によって撤退しました。マックは、危険な場所には開店しないとのこと（失礼な?!）。ユニクロ（若者を使い捨てにするブラック企業の噂あり）が11月に開店します。市内でどこに行ってもユニクロを着た人だらけになるのかも？

私だけの映画館

そして、気仙沼には映画館がありません。昔は5軒あったそうです。しかし、個々人の趣味の多様化やテレビに取られて、無くなりました。私は、映画は映画館で見るべき主義です。大きなスクリーンで見るからこそ、自分一人で画面に集中して、主人公になった気分になります。

仙台や盛岡で泊る時には、夜は決まって映画館へ行きます。また、土日で暇な時の夜は（ほとんど毎週暇ですが）、車で一ノ関の映画館へ行きます（冬は国道が凍結して、行けません）。ほとんどの映画館が、シネマ・コンプレックスです。また、上映作品は封切映画がほとんどで、昔の名画の上映はありません。

夜と言うこともあって、映画館の観客は、仙台では5~6人、盛岡では3~4人、一ノ関では私1人だけの時が多いです。「私だけの映画館」、これ程ぜいたくで至福の時はありません。しかし、一人ぼっちで恋愛映画を見ていると、空しく感じる時もあります。

私は、今あることを考えています。もしも映画館の人と顔見知りになれたら、どうせ私一人だけなので、私のリクエストの映画を上映してもらえないかと言うことです（「アラビアのロレンス」や「仁義なき戦い」など一貫性がない）。

被災地と映画

被災者の人達から良く聞く言葉は、「津波はまるで映画を見ているようだった」ということです。被災地では、DVDや映写機・スクリーンを持って、避難所や仮設住宅で、映画を上映してくれるボランティアがありました。被災者の人達は、映画を見ることによって、心が癒されるとともに、生きる力を与えられました。

また、宮古（釜石かも）では、映画館で映写機をアナログからデジタルに取り換えなければならなくなり、資金が無いので、店主は映画館を閉店しようと思いましたが、そのことを知った市民や全国の映画ファンからカンパが寄せられて、映画館が存続できることになりました。その街が文化的かどうかは、映画館があるかないかでも判断できます。

3・11を是非 映画に

現在も29万人の被災者が避難生活を余儀なくされています。被災者の方達は、津波

や福島第1原発の爆発によって、人生は大きく変わりました。全財産を失って、絶望した被災者も多かったですが、全国からの支援やボランティア、地域の人達の助けによって、「絆」という財産をもらいました。29万人の被災者の人達には、29万のそれぞれ異なった人生があります。是非、3・11を背景とした映画を撮ってもらいたいです。

巨匠の監督達が、もしも現在も生きていたら、

- ①小津安二郎ならば、仮設住宅で暮らす被災者の日々の生活を
 - ②黒澤明ならば、震災で翻弄される被災者をミステリー風に、
 - ③山本薩夫ならば、福島第1原発の被災者や漁民や作業員達が、東電や政府に対して立ち上がる群像劇を
 - ④野村芳太郎(生存)ならば、不倫を清算して夫とも離婚をして自立していく女性を(石田ゆり子主演、私が一番見たい作品。3・11と関係があるのか?)
- を撮ったかもしれません。

【“私だけの映画館” シニア料金(千円)で見えています。(一ノ関シネプラザ)】



*先日、[]から県を通じて、私が担当している事業の[]について、申請よりも[]するとの連絡がありました。[]の廃止(歳入減)や[]の新規事業(歳出増)との関係は定かではありませんが。

【特定秘密保護法案が通れば、「気仙沼通信」はこうなります。】 []は次の言葉です：復興庁、平成26年度予算、17%削減、復興特別法人税、オリンピック関連